





#### このレビューはどれくらい最新のものか？

このレビューの著者らは2016年1月までに行われた研究について調査した。このキャンベル系統的レビューは2018年2月に発行された。

#### キャンベル共同計画とは何か？

キャンベル共同計画は、系統的レビューを公開している、国際的・自主的・非営利の研究ネットワークである。我々は、社会および行動科学のプログラムに関するエビデンスの質を評価し、まとめている。我々の目的は、人々がより良い選択そして政策決定ができるように手助けをすることである。

#### この要約について

この要約は、ハワード・ホワイトHoward White (キャンベル・コラボレーションCampbell Collaboration)によって作成された。Campbell Systematic Review 2018:03 “Effectiveness of interventions to reduce homelessness: a systematic review and metaanalysis” by Heather Menzies Munthe-Kaas, Rigmor C Berg and Nora Blaasvær (10.4703/csr.2018.03.)に基づいている。要約は、タニヤ・クリスチャンセンTanya Kristiansen(キャンベル・コラボレーションCampbell Collaboration)が再デザインと編集を担当した。この要約に対するAmerican Institutes for Research for the productionからの財政的支援に謝意を表す。



これらの介入には 同様に有益な効果があると考えられる。しかし、ホームレス状態を減らして居住安定性を向上させるという点について、このなかのどれが最善であるかは明らかではない。通常のサービスと比較した場合、高強度のケースマネジメントとハウジング・ファーストでは、中程度の確実性があるエビデンスが得られている。

#### このレビューの知見の意味するところは何か？

さまざまな居住プログラムとケースマネジメントの介入は、通常のサービスと比較すると、ホームレス状態を減らし、居住安定性を向上させるように思われる。

しかし 不十分な研究報告 二重盲検の不実施 不十分なランダム化 参加者割付の秘匿の不実施によるバイアスのリスクが大部分の研究にあるため この知見は不確かである。よりよく実施および報告される研究が一般的に必要なのに加えて 以下の点に関する研究には明らかでない乖離みられる。1) 恵まれない若者 2) ケースマネジメントもしくは日中治療を伴う禁欲随伴インセンティブ住宅Abstinence-contingent housing, 3) 非禁欲随伴インセンティブ住宅の比較群vs 独立生活群 4) 通常のサービス以外の介入と比較したハウジング・ファースト 5) 米国以外の研究。